

第4回富士見市文化芸術振興委員会 議事録

日 時 平成28年11月22日(火) 18:30~20:30

場 所 鶴瀬公民館第3集会室

出席者

加藤	氣賀澤	大橋	小倉	吉川	野村	佐藤
○	○	○	○	○	×	×
秋元	肥田	関	星野	長坂	東海林	高橋
○	○	○	×	○	○	×

○事務局

【地域文化振興課】中嶋課長、鈴木主任、田中主事補

1 開 会

2 あいさつ 加藤委員長

3 議 事

(1) 平成27年度文化芸術事業報告書について

事務局より平成27年度文化芸術事業報告書の説明を行う

「振興委員会コメント」欄に関して、評価ではなく各ライフステージにおいて芸術に係る委員から率直にどう思ったかという視点での意見・コメントを戴きたい旨を説明した。また、本日の委員会で実施できなかった分に関しては次回委員会開催時に実施し、それでも終わらない箇所に関しては委員長・副委員長でコメントを行う旨を説明した。

委 員)すでに評価欄が記載されているが、どのように評価を行ったのか。

事務局)担当課による自己評価である。

委 員)自己評価では甘い評価になるのではないか。

事務局) 評価方法については今後検討してゆくべき課題であると認識している。
文化芸術事業報告書が初めての試みであるため、今後も検討課題が挙
がってくると考えているが、回数を重ねる過程でより良い取り組みと
なるように委員会とともに努力したい。

以下、平成27年度文化芸術事業報告書各取り組みに対するコメント

①富士見市文化芸術振興職員研修

委 員) 平田オリザ氏が講師というのほうらやましい。

ぜひ継続し、未経験の人が優先的に受講できるようにしてほしい。

委 員) 参加者は同じ人が何回も受講しているのか。

事務局) 基本的には未受講者を優先している。

委 員) 研修は数日間実施するのか。

事務局) 半日実施である。

委 員) 所見に「役立つものとなった」とあるが、コミュニケーション能力が
向上したという具体例はあるのか。

事務局) 研修を受けた職員のその後を一人ひとり追っていくのは現実的に困難である。
評価が甘いという意見はごもつともである。

委 員) コミュニケーション能力の向上が何につながるのか、具体的に提示できれば
面白い。

委 員) 試みとしては面白い。ぜひ全職員の受講が完了するまで続けてほしい。

また、文化芸術関係事業を専門的に行う職員を養成し、将来的には専門職員
による研修が実施できればより望ましい。

②ふるさと祭り推進事業

委 員) 実行委員会として祭りの宣伝を大々的に行っているが、知らない人も多い。
他の宣伝方法も考え、より多くの人に祭りの存在を知ってもらいたい。

委 員) 地域によっては交通手段がない。臨時バス等の手段を講じる必要がある。

委 員) 10月に行う必要はあるのか。8月に戻して花火をあげてもよいのでは
ないか。

事務局) 花火を復活させたいという声は多く聞くが、基準が厳しく、花火をあげるこ
とができる場所がない。

委 員) 健康まつりと日程が重なる。どうにかならないか。

事務局) 増進センターに開催日程を伝えるなど、日程が重ならないように工夫したい。

委 員) 評価欄「それぞれの役割をはたしている(協働)」「身近に親しめる文化芸術」
に○が入っていないのはおかしい。

委 員) 実行委員会に個人での参加者はいるのか。

事務局) いない。

委員) ぜひ公募をおこない、団体だけではなく個人での参加ができるように検討するべき。

③文化振興基金積立事業

～省略～

④市民文化会館維持管理事業

委員) 雨漏りが施設内数か所にみられるが、なかなか治らない。

事務局) キラリからの報告はモニタリングで逐一受けており、修繕を行っている。

キラリのように大規模なコンクリート建造物では雨漏りの発生個所の判断が難しく、修繕の結果が現状であることをご理解いただきたい。

委員) メインホールロビーのじゅうたんが膨らんでいる。

事務局) キラリと共有する。

委員) 休館日が多すぎるのではないか。

事務局) 休館日に施設の維持管理を行っている都合から、これ以上休館日を減らす事は管理面から望ましくないと考えている。

⑤市民文化推進事業

(文化芸術推進委員会・文化芸術振興庁内委員会の開催)

委員) 庁内委員会で視察に行く際、振興委員会にも声をかけてほしかった。

事務局) 今回の視察は急きょ決まった話だった。今後はお知らせする。

委員) 視察先のおおた芸術学校ではオーケストラの楽器が全部そろっている等、音楽を学び、発表するシステムが充実している。キラリでも同じようなことはできないのか。

委員) 音楽だけではなく、芸術作品を常設展示できる施設があればよい。

市として芸術作品の保管する場にもなるのではないか。

事務局) 現地を視察したが、おおた芸術学校は太田市の10年を超える文化芸術振興の施策実施の結晶であり、富士見市が現状で実施することは現実的に難しいと感じた。

委員) 太田市の真似をするのではなく、富士見市では富士見市なりの文化芸術振興があると考えている。今回のように評価を行うだけでは委員会がマンネリ化してしまう。できれば委員会の中でいろいろと新しい試みをできるように話し合える場としたい。

委員) 委員会としてはまだ若いので、これから回数を重ねるごとに委員会として成熟していくのではないか。

委員) 民謡連盟ではふじみ野小の学童に出向き、三味線などの楽器や譜面を触ってみてください。と言う試みを行っている。概ね好評で南畑小の学童にも声をかけている。小さいことでも何かアクションを起こすことが大切である。

⑥市民文化推進事業

(小学校合唱部指導者派遣事業)

委員) 市内に小学校はいくつあるのか。

事務局) 11校ある。新しく合唱部をつくることは先生の負担が大きいこともあり、現実的には難しい。

委員) 企画としては良い。

事務局) 先生からも好評である。

委員) 将来的には中学校にも実施できれば。

委員) 音楽の先生が2～3年で異動になってしまい、合唱部のレベルが安定しない。

委員) 講師が小学生に教えるだけではなく、先生を教える機会があってもよいのではないか。先生に対する指導を通じて市内の合唱部のレベルを一定の所まで引き上げることができるのではないか。音楽の先生が悩んでいるポイントに対し、アドバイスなどもできる。

⑦市民文化推進事業

(子ども文化芸術大学ふじみの開校)

委員) とても良い施策である。若い時分に経験したことは大人になっても本人の中に残っている。

委員) 講座を数種類用意して、受講生が講座を自由に選べるようにすれば良い。

事務局) 子どもに対して、人生の様々な選択肢、進路を選ぶきっかけをつくるのが目的である。今後もいろいろな方法を模索したい。

委員) 定数割れしている。周知不足ではないか。

事務局) 二年目である今年は36名(1名キャンセル)の応募があった。

委員) アンケートの記載があるが、保護者だけではなく受講生のアンケートも記載したほうが良い。

委員) ふじみ野市の俳句大会の例(学校の授業に俳句を取り入れたところ、小学生の応募が約4000あった)もある。学校教育に文化芸術を取り入れることが効果的である。

事務局) 各学校に対してはキラリふじみの企画としてアウトリーチ事業を行っている。